



## 原田牧場 Note

page 15

酪農家にとってなくてはならない存在、運送業界についてお話しします。家にいながら仕事や生活が成り立つのは様々な運送屋さんのおかげ、一日でも滞れば支障をきたすというくらい、酪農業と運送業はお互いなくてはならない存在です。

まず365日の生乳集荷。我々以上に衛生管理に気を遣い、ピカピカに磨き上げたタンクローリーでやってきて、生乳の検査を行い、どんな天気の日でも安全に乳業メーカーの工場まで運んで行ってくれます。吹雪の日は計画的に前倒し集荷をしてくれ、もし集荷がこなければミルクタンクがいっぱいになって溢れてしまう！=廃棄が出てしまう！と我々に心配させることはほぼありません。地吹雪が凄まじい地域なのに…並々ならぬ努力で守られている信頼によって、酪農家は仕事に専念できているのです。

次に牛の移動です。牛を市場に出したり、若牛を預託牧場に預けたり戻したりは、家畜車というトラックにお世話になります。床におがくずが敷いてあり、牛が足を滑らせないように、牛の事故がないようにつないで、生き物を運ぶのですから、運転の技術も相当気を遣ってくださっていると思います。また、子牛から親牛まで、歩かない牛もいれば急に走り出す牛もいる。預かりものの大事な牛に何かあれば市場の価格にも影響があるのです。扱いにも長けていないといけません。子牛の場合は体調のことも目効きしてくれ、少し具合が悪そうに見えたら、次の市場に見送る助言をくれたりもします。また、死亡した牛は別の運送会社さんが運んでくれます。

夏の牧草収穫時期には、コントラクター（畑作業請け負い組織）の運送会社にお世話になります。モアコン（草刈機）ハーベスター（収穫機）刈った草を運ぶトラック、踏圧作業をするショベルやユンボ。栄養価の高い牧草を収穫できる時期は限られている中で一気に作業をしてくれます。高額な機械費用、維持費もかからないうえ、農繁期の労働量も軽減できます。収穫後は牧草地に堆肥をまく作業もやってくれます。

その他、餌や肥料や酪農資材、農場内で使う軽油も全部運送屋さんが運んできてくれます。牧場にいるだけで仕事が成り立つのは誰のおかげか、身にしみてわかっています。

ある運送会社の社長さんから「物流の2024年問題」を前に、社内でも対策は進めているが、人材が不足しトラックはあっても、牛や物が運べなくなる事態が起こり得る。とお聞きし、我々にとっても深刻な問題と捉える機会を得ました。対策の一環で業界のイメージアップができないか？と相談され、酪農業界も生産調整で苦しい渦中であったため、お互いに励まし合うような形で、でも落ち込んでばかりもいられない！楽しい発信をしていかねば！と意気投合し、トレーラーの荷台を楽しい絵柄のシールでラッピングすることになりました。物々交換でデザインを請け負ってきた（原田牧場Note page1参照）ワタシ史上、最大の案件です。町にも許可を取り、町のゆるキャラを使って標茶町のPRもできたら！と、懇意にしている看板業者さんの協力も得て、構想2年がかりで、素晴らしいラッピングトレーラーが出来上がりました。ウィングが上がりお祭りのステージとしても使え、運転席に試乗できる体験や撮影に、多くの子供たちも集まってくれました。絵柄を考えるにあたり、標茶町の宝物を散りばめました。星の数が多すぎてただただ驚く夜空、SL湿原号、自然の中でキャンプやカヌー、大きな虹も本当によく出ます。標茶の子供たちに、いつまでも心にとどめて欲しいなと願う風景です。業界の改革は、良くなる面とそうでない面の折り合いをつけながら混沌と進むしかないと思いますが、ともし火のような絵柄になった気がしています。

昔、生乳はミルク缶を馬そりや自転車に乗せて、集乳所まで個人で運んだそうです。1.2頭しか飼っていないし、そこらへんの草だけ食べているから量も出なかったけど貴重な収入源だった、と牧場の父。集乳所は憩いの場になっていて、井戸端会議が長くなったり、時には酔っぱらって荷台で寝ちゃう親父なんかもいたが、馬は親父ごとそりを引っ張って、ちゃんと家に帰ってきたよ、すでに自動運転があったんだよ！と牧場の父が言うので笑ってしまいました。機械がない分、人力が必要で、ご近所付き合いが大切とされた時代。今は機械化、システム化されて、お隣業界の状況も見えづらくなっ

てしまっていますが、言葉や文字、牛さんのようにアイコンタクトでもいい

から発信をして、

一緒に考えていく。  
お隣どうしのつながり、  
人力の大切さを改めて  
見つめ直していかなばと  
思っています。



(有) 釧根東部運輸HP  
Instagramに写真掲載中



筆者 原田 希

1973年 大阪府吹田市生まれ

2006年 酪農家との結婚を機に北海道標茶町へ

2017年 北海道農業士に認定 北海道指導農業士の夫とともに

新規就農者の支援や女性農業者向けの勉強会のお世話係を担当